

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・論述式 (250字~300字)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問5題は昨年度までと同じ。マーク式の設問が34問で変わらず。論述式の設問の制限字数は、今年度も250~300字で分量に変化なし。難易度は、総じて昨年度と変わらず。

出題の特徴や昨年との変更点

マーク式設問の過半を占める文章正誤判定問題は、昨年度の23問から1問増加して今年度は24問で、増加傾向にある。正誤の判断基準は、因果関係や年号・年代の誤りを判断させるものよりも、単なる用語の誤りが中心になる傾向が続き、用語のレベルも易しくなりつつある。その分、本腰を入れて論述問題の対策をしてほしいとの大学側の意図のあらわれだろうか。現代史からの出題が比較的少ないことが法学部の特徴であり、一昨年度・昨年度は第二次世界大戦後からの出題があったものの、今年度は第二次世界大戦後からの出題はなく、現代史の出題もわずかであった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	中国歴代王朝の統治 (殷~清)	設問6. ②白居易は、玄宗期より後の唐後期の詩人。やや細かい知識だが、他の選択肢が明らかな正文なので、消去法でも絞れる。設問9. C (戊戌の変法の開始) → B → A の順は容易で、これを満たすのは③のみ。Dの時期が細かいが、わからなくても解ける仕組みになっている。	やや易
II	マーク式	ローマ法学史 (古代~近代)	設問1. 正文の判断は容易。エ. コロナトゥスが農業生産の中心となるのは、元首政の初期ではなく軍人皇帝時代の3世紀頃から。設問3. ウ. シトー修道会は、フランスに創設。早大では、修道院・修道会は創設の場所も必須。設問4. エ. オクスフォード大学からケンブリッジ大学が分かれた。設問8. 難関私大レベルでは文化史はおおよその時期まで覚えておく必要がある。	やや易
III	マーク式	スイスの歴史 (古代~近代)	設問2. 3. 消去法で解けるが、『神の国』の執筆時期は早大受験者ならこの機会に覚えておくとよい。設問4. 4. 不輸不入権は、領主が国王の課税権・裁判権などを拒否する権利。設問5. 「ダンテの誕生」以外の時期はすべて基本なので、容易に正解を絞れる。設問6. 1. ヨークタウンの戦いでアメリカ独立戦争が事実上終結するので、容易に誤文と判断できるが、植民地側の勝利でフランス参戦の契機となったサラトガの戦いは知っておこう。	やや易

IV	マーク式	ドイツ統一への歴史(中世～近代)	設問3. ロ. 対オーストリア宣戦は、立法議会のジロンド派政権による。ただし、正文の判断は容易。設問8. ハ. 「南ドイツの諸邦もプロイセンと同盟を結んだ」の判断が難しく、消去法で絞る。イ. ドイツ関税同盟にオーストリアは不参加。ロ. フランクフルト国民議会はプロイセン王の帝冠拒否で挫折。ビスマルクがプロイセン首相となるのは、その後のこと。ニ. 帝国宰相は皇帝にのみ責任を負い、議会には責任を負わなかった。	標準
V	論述式	フィリピン独立に至る政治的・経済的経緯(16世紀～第二次世界大戦終結直後)	特に使い難い指定語句はなく、指定語句を手掛かりに書くべき事柄は容易に思い浮かんだらう。ただし、単に指定語句を消化してフィリピンの歴史を述べただけでは問題の要求に答えられていない。まず、問題文に「アメリカ大陸と深い交易関係をもちながら」とあるので、スペイン領アメリカやアメリカ合衆国といったアメリカ大陸との関係を意識する必要がある。さらに、政治的のみならず経済的な経緯も問われていることを見落としてはならない。アカプルコ貿易以外は経済面への言及を忘れがちだが、マニラ開港後の商品作物栽培の拡大など、字数の許す範囲で触れよう。論述問題は、知っている知識を何でも並べればよいのではなく、出題者の意図を読み取り、要点を的確に絞り込んだうえで書くことがポイントである。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

時代・分野では、前近代史からの出題が中心だが、現代史から多く出題される年もあるので、早大を志望する以上、全時代・全分野の網羅的学習は必須である。マーク式問題は、選択肢が一見難解に見えるものの、実は基本的な事項で誤りを判断できるパターンがほとんどである。細かい事項ばかりに注意を向けるのではなく、基本事項の確実な習得が重要であることを意識しておこう。また、今年度の論述式問題は250～300字と昨年度を踏襲しており、近年、制限字数300字が定着している。論述はボリュームがあるため、論述力を伸ばすうえで添削指導を受けることが望ましい。